

* 研究授業からの学び *

R4.8.25

No.1

文責 新玉

令和4年 6月15日(水)
西土佐小学校 第6学年 総合的な学習の時間 谷口 由紀 教諭
単元名 「西土佐応援プロジェクト」全70時間
小単元1 「よって西土佐ってどんなものがあるのかな」(15時間)

<単元でつきたい力>

- ・西土佐のものを活かしながら、地域の活性化を目指している人々の思いに気づき、目的に合った方法で調べ、その人々の思いや願いを理解することができる。【知識及び技能】
- ・今までの自分たちの経験や調べて分かったことから、課題を設定し、解決に向けて複数の情報を観点に合わせて整理したり、比較したりしながら考える。【思考力、判断力、表現力等】
- ・課題解決に向け、自他の良さを活かしながら協働的に学び合い、探究活動に進んで取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

本時の目標

集めてきた情報を整理し、気付いたことを話し合うことができる。

本時の評価規準

集めてきた情報の特徴を分類し、比較したり関連付けたりして、新たな気づきをもつことができる。【思】

本時の情報活用能力

「考えるための技法」を活用し、集めた情報を視点に沿って分類することができる。

西土佐ではたくさんの野菜を栽培していて、おいしいものばかりあったね。



本時の授業風景

西土佐と十和、大正（北幡）で、お互いに協力したり、北海道の旭川や沖縄の道の駅と交流したりしているなんてびっくりした。

本時の板書



研究協議より（抜粋）

授業者より

- 5年生で西土佐の特産物について学び、そこからつながるように「山間屋」「よって西土佐」について調べていく計画にした。
- 児童は、情報機器を扱うことが好きなので、まとめとしてYouTube等で発信するようにしたい。
- 導入で写真を見せることで興味をもたせた。
- 発言が苦手な児童が多く、気づきをノートに書くことで考えをまとめさせた。
- 各グループで共通する視点をしぼることが難しく、1グループを例に視点を考えて活動した。

参観者より

- 思考ツールを活用しながら、調べたことをもとに新しい気づきを見つけることができていた。
- 特別支援学級の児童も活躍できる場面を設けていた。
- 西土佐と他地域とのつながりに気づき、振り返りでは地域の人の思いに気づいている児童もいた。
- 適切な思考ツールであったのか。
- 板書が見やすく、Jamboard、ペン、ホワイトボード等工夫があるとよかった。
- 話の聞き方、自分の意見の伝え方を徹底したり、発言した児童を認める雰囲気づくりが大事。
- 自分の思いを自信をもって表現できるようにしたい。
- めあてが「新発見」だったが、本時までには多くのことを調べて知ってしまったのではないか。
- 分類なのか、整理なのか。
- 児童がゴールイメージをもって学習できているのか。目的意識や課題意識をもたせることが大切。
- 班活動の時間はもっと短くてもよかった。

指導主事より

- ・子どもに寄り添い、子どもを大切にしながら授業に取り組んでいた。
- ・目的意識（何のためにするのか）をしっかり持たせることが大切。
- ・自ら課題意識をもつことが大切だが、教師が適切な働きかけをする必要がある。
- ・子どもがずれや疑問をもつ課題設定をしたい。どんな問いを出すと子どもが疑問をもつかを考えるようにしたい。

授業者のリフレクションより

- ・整理をするときは、グループの代表ではなく、どの児童にも整理する力を身に付けさせたい。そのために、個人思考の場で複数の情報を整理する時間を設け、その後、グループで共有する時間を設定する。一人一人の考えを見取ることで、評価につなげたい。
- ・早い段階で目的をはっきりさせ、学習を進めていくことが必要。そのために、教師が次の学習につなぐ資料提示をすることや発問をする工夫がいる。

☆これから取り組んでいきたいこと

- * 児童の目的意識を明確に持たせられるように、教師自身が見通しを持った単元構成を計画する。
- * 児童の意見を認め合う集団づくり
- * 一人一人が複数の情報を整理する時間を確保する。